

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 坂下高等学校 学校運営協議会 (第1回)
- 2 開催日時 令和7年6月24日(火) 13:30～15:45
- 3 開催場所 坂下高等学校リハビリ実習室
- 4 参加者

会 長 副 会 長 委 員	須栗 大 鎌田 則之 半沢 岳彦 安江 裕之 久野 智治 丹羽 達也 秋山 小枝 長瀬 愛 伊藤あずさ 原 京子	中京学院大学教授 連携推進部長 やさか観光協会会長 坂下まちづくり協議会理事 坂下公民館長 坂下中学校長 坂下小学校長 本校同窓会長 中津川市社会福祉協議会地域福祉課 地域住民 本校保護者代表
オブザーバー	森 益基 成瀬 博明 岩久 義和 野村 充久 廣瀬 竜也	岐阜県議会議員(欠席) 中津川商工会議所専務理事 中津川市教育長(欠席) 中津川市市民部次長 坂下総合事務所長
学 校 側	杉山 醇 板津 裕也 斎藤 良成 熊谷 美奈 曾我 純一 酒井 雅代 岡本 拓郎 田上 紘子	校長 教頭 事務長 教務主任 生徒指導部長 進路指導部長 地域探究科主任 福祉科主任

5 会議の概要(協議事項)

(1) 学校運営基本方針の説明について【学校長、各分掌長による説明】

意見1：昨年、地域探究科の成果発表会を見学した際に、しっかりとした発表ができていたが、それを生徒に伝える場面があるとよい。
⇒今年度は、検討したい。

意見 2 : 福祉科の入学生は少数であり、存続を懸念している。

⇒福祉は、今後さらに必要とされる分野である。現在の福祉の職場は ICT 機器や最新設備が導入されるなど、一昔前のイメージとは大きく環境が変化している。そのような点を中学生やその保護者にうまく伝えていきたい。

意見 3 : 福祉科を全国から募集するとよい。市内の大学が多治見市に移転したらアパートが空くので、それを利用できるのではないかな。

(2) 本校の現状について【学校長、各分掌長による説明】

(3) 学校運営全般に関する意見交換について

意見 1 : ボランティアグループ「チャームメイツ」による花植えの際に、地域に貢献したいから参加したという生徒がいてうれしかった。地域探究科の生徒に、坂下の魅力について採点してもらい、地域の活性化に生かしていきたい。

意見 2 : 入学生アンケートの結果より、ポスターをきっかけに入学を決めた生徒は 0 人だった。時期によって中学生が情報を得る方法が異なるので、クロス分析により、中学生への新しい広報の工夫につなげられる。家族や親戚から薦められて入学を決めた生徒が増えたことは、本校が地域に浸透してきた結果である。

意見 3 : 「ふくち一たんず」は、本校のよいキャラクターで、公民館と本校との連携行事の際に、積極的に使っている。坂下の人が本校のことを知ってもらえないことも多いので、キャラクターが一つのきっかけになるとよい。

意見 4 : アンケート結果より授業評価が高いことは、大きな魅力であり、アピールポイントである。米寿の取り組みや「咲明日高校マルシェ」などでは中学生とも連携して活動している。部活動でも連携できるとよい。

意見 5 : 坂下には伝統的な地歌舞伎があるが、文化部や愛好会などの形で、中学生と高校生が地域の保存会と一緒にになって取り組めるとよい。「総合的な探究の時間」のゼミ活動で地歌舞伎を取り上げているが、高校の中で完結するのではなく、地域とともに活動し発信できるとよい。

意見 6 : 広報活動のときには、小学生とも直接かわりながらチラシなどを配布している。小学生が関心の高いもので連携したり、まだあまり知られていない坂下の有名な場所などを活用できるとよい。

意見 7 : インスタグラムが頻繁に更新されて面白いが、それを外部に広げていくのが難しい。まずは卒業生に広がるように、同窓会でも応援していきたい。高校に興味をもってくれる中学生は多いが、進路につながるのは難しい。特に福祉は中学生で決断するのは難しい。周りからの後押しで本校に入学してくる生徒も多いので、高校の魅力を大人に発信していきたい。

意見 8 : 8 月の中学生向けボランティア講座で福祉に触れてもらっている。参加者は年々減っているが、講座参加の成果がすぐに結果につながらなくても、いつかつながればよいと思う。福祉の体験を通して、福祉の魅力を伝えていきたい。

意見 9：福祉科の募集が伸び悩んでいるのは進学実績ではないかと思う。福祉科の生徒が利用できる中津川市の支援金は、高校の授業料無償化に伴い、魅力が少なくなった。もっと魅力的な内容に制度を変える必要がある。

意見 10：支援金制度はシステムが複雑で申請しにくい。具体的にわかりやすく保護者に伝えてほしい。生徒は、本校での活動に取り組むことで自己肯定感が高まっている。さらにコミュニケーション力を高めて、生徒自身が自らの体験を小中学生に伝えられるとよい。

意見 11：リニアやご神木、苗木城など、国道 257 号線沿いにはイベントが多いが、やさか地域は少ない。神坂スマート IC の開通がチャンスである。観光協会としては本校と連携してやさか観光マップを作成予定である。また、各種イベントのボランティアにも参加し、やさか地域との連携を深めていきたい。

(4) オブザーバーから

意見 1：福祉科のイメージが老人介護に特化している。人に優しい福祉、日本一の坂下高校ぐらいのキャッチフレーズにしないといけない。地域探究科は、最初は学科の学びが分かりにくかったが、デュアルシステムなど具体的になり分かりやすくなった。坂下には全国的なイベントや世界に誇れる企業、出身の著名人などシンボリックな存在があるので、活用してほしい。郷土の偉人や先人も大切にしてほしい。

意見 2：先生方が丁寧に生徒に接し、保護者にも学校の情報を発信している。今回の会議の様子も保護者に伝えてほしい。本校は、今年 2 月に行われた中津川市域学連携の発表会でも課題分析賞をいただいた。学校経営方針にも地域との連携がしっかり表に出ていてよい。

意見 3：地域は人手不足のため、坂下をはじめ中津川市内での就職者が増えるとよい。

5 会議のまとめ

- (1) 第 1 回学校運営協議会では、委員より今年度の本校学校経営計画を踏まえた学校運営基本方針について承認が得られた。
- (2) アンケート結果を有効に活用して、広報の在り方について検討し、志願者の増加につなげていきたい。
- (3) 地域探究科については地域と連携しての教育活動が形となり、また中学生・保護者・地域住民にその活動が認められてきている。今後は「総合的な探究の時間」を中心に探究活動の質を高める工夫をしていきたい。福祉科については、介護福祉士の資格取得をめざすうえで、福祉の学びがさまざまな仕事につながることを踏まえた進路先の多様性について、中学生に発信していきたい。また地域の行政機関と連携しながら、介護・福祉・医療職等に従事することの魅力を大人に向けても発信していきたい。